

島原泰雄編

飛鳥井雅章集

上

古典文庫

島原泰雄編

飛鳥井雅章集

上

古典文庫

古典文庫第五五二冊

平成四年十一月二十日印刷発行

非売品

飛鳥井雅章集

上

編者 島原泰雄

発行者 吉田幸一

印刷者 白橋印刷所

発行所

114

東京都北区西ヶ原
三ノ三四ノ一二

古典文庫

電話(三九一〇)二七一七
振替口座東京九・一四五九七番

飛鳥井雅章集

上卷

凡例

一、飛鳥井雅章集には、大阪女子大学図書館蔵「雅章卿御詠」、祐徳神社蔵「雅章卿詠草」(上巻)、宮城県図書館蔵「飛鳥井雅章詠歌集」、宮内庁書陵部蔵「雅章卿千首」、吉田幸一博士蔵「雅章卿和歌」(下巻)の写本五本を翻刻して収めた。

一、翻刻に際しては、次のような方針に従った。

1、漢字・仮名の別、仮名遣い、送り仮名等すべて底本のままとした。ただし、漢字の字体は、固有名詞を除き、概ね通常活字体に従った。

2、底本の誤字・脱字はそのままとしたが、不審の場合は(ママ)と傍記した。

3、虫損の場合は判断しうる限り解説したが、難読のばあい(虫損)は□に推定文字を入れた。

4、見せ消ちはそのまま記したが、明らかな誤字の場合は正しい方のみを記し

た。

5、繰り返し記号は、漢字一字は々、仮名一字はゝ、二字以上はくゝに統一した。

6、厂は雁とした。

一、和歌は一首一行書きに統一した。又、年月日、歌題、詞書等も便宜上形式を統一した。

目次

凡例	三
----	---

一 雅章卿御詠	一冊	大阪女子大学本	七
---------	----	---------	---

二 雅章卿詠草	一冊	祐徳神社中川文庫本	三七
---------	----	-----------	----

一

雅章卿御詠

一冊

大阪女子大学本

雅章卿詠哥

寛永四年七月廿四日 御月次三首懷帡

路薄

1 いつくまでたとりゆかまし風ふけはまねく尾花を道のしるへに

聞鹿

2 更行は枕にちかくきこゆなり麓のゝへかさをしかの声

変恋

3 うきなからちきりし事を頼にて替る心を猶したふ哉

同 八月廿四日 御月次短冊

寄海恋

4 よなくの涙の海にしつむ身のみるめもなくて絶やはてなん

同 八月廿五日 於御学文所御当座

荻

5 草も木もなひくか中にさひしさの音こそ替れおきの上風

同 重陽の御会に

菊粧如錦

6 うつし植てみるたにあかぬ庭の面に錦おりなす菊の色々

同 九月十一日 於御学文所御当座

見月

7 影清き雲ゐの月はみても猶あかぬ心にそふ光哉

同 九月廿四日 御月次懷昏

霧中山

8 立こむるきりの中とや成ぬらん見なれし山のおも影もなし

蔦懸松

9 日にさらす錦の色とみる斗松にかゝれる蔦の紅葉ゝ

田家鳥

10 風吹は門田にさわく村雀ひかぬなるこにおとろかされて

当座

秋野

11 帰るさの道やまよはんはかなくも千種の花に分て行野は

秋旅

12 うき事のある身につけて思ひ出んなれも旅なる初雁の声

同 十月十二日 六条殿にて当座

恨恋

13 つれもなき人の心のよはりなてうらみの程をいふよしもなし

窓竹

14 吹風の絶間なければくれ竹に猶はれくもる窓のうち哉

同 十月廿四日 御月次短冊

秋夕

15 秋はたゞいつも同じ夕かとおもひやらるゝ空もさひしき

寛永五年正月十日 会始

梅万春友

16 咲梅を春は友とやかさゝましなを行すゑの万代までも

同 正月廿八日

年内早梅

17 ふるとしの雪の色なる梢よりにほひそななる梅のはつ花

同 七月十三日 柳原中納言殿にて懷昏

曙郭公

18 したふにも行方しらぬ郭公月のみ残る曙の空

名所瀧

19 やまひめのひもなく糸をくりためてなを織かへる布引のたき

同 七月廿四日 当座 難波殿にて

路薄

20 花薄一方ならてまねく野にいつくを道のしるへとはせん

関月

21 清見かた明行空の月影はとゝむる波の関守そなき

同 八月十四日 当座

紅葉

22 日にそひて庭の一木も色そふやさそなたつたの山のもみちは

神祇

23 くもりなき御代は月日のかけとゝもに天てる神を猶あふく也

寛永六年正月十四日 会始

每春花芳

24 としをへてめかれぬ色に咲にほふはなに千とせの春を契らん

同 二月十九日 禁裏御会始

多年翫梅

25 咲やこの花はにほひも年ことにあかぬ色にし猶まさるらむ

同 二月廿二日 水無瀬殿御法楽

神祇

26 ちりうせぬ松をためしにことのはの猶道まもる神やあふかむ

同 水無瀬殿にて法楽

禱衣

27 月はなを入にし後もから衣うつ音のみや空にすむらむ

同 二月廿五日 聖廟御法楽

時雨過

28 かきくもる空はほとなく晴てしも雲の行ゑや又時雨らむ

同 閏二月廿四日 御月次短冊